

ダダ宣言 一九一八\*

あるひとつの言葉——ダダ——の魔法は、新聞記者たちを手懃不可能なる世界の門前に立たせたが、われわれにとつてはなんの価値も持たない。

ひとつの大宣言を発するため必要なことは、理論A・B・Cの確立を意図し、異論1、2、3を雷撃のもとに一蹴すること、

神経を張りつめ、翼を研ぎすまして大小さまざまの諸説a、b、cを征服して、その版図を拡張し、署名し、声高に叫び、宣誓して完全無欠、反駁を許さぬ明証の形をそなえた散文を作成する、過激な極論は卒業ずみの証拠を示し、さらにある娼婦<sup>ココヤ</sup>\*の最後の登場が神の本質的属性を証明するのとおなじように、新機軸の出現が生命現象に似かようことを力説することだ。その存在はすでに合意促進装置、風景画、